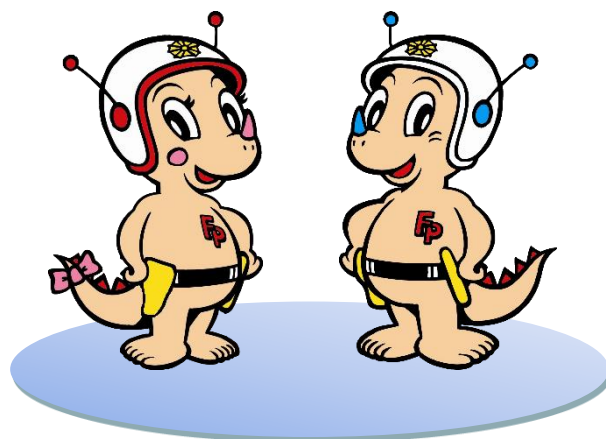


福井県の治安情勢 [7月末現在]

(令和4年7月末数値は暫定のものを含む。)



令和4年8月31日 交通死亡事故緊急対策隊の出動



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は1,434件で、前年同期に比べて41件(2.8%)減少

検挙件数は980件で、前年同期に比べて23件(2.3%)減少

検挙率は68.3%で、前年同期に比べて0.3ポイント上昇

		R1	R2	R3	R4.7末
福井	認知件数(件)	3,132	2,764	2,714	1,434(-41)
	検挙件数(件)	2,023	1,960	2,119	980(-23)
	検挙人員(人)	1,291	1,263	1,100	600(-27)
	検挙率(%)	64.6	70.9	78.1	68.3(+0.3p)
全国	認知件数(件)	748,559	614,231	568,104	324,857(-365)
	検挙件数(件)	294,206	279,185	264,485	139,209(-10,937)
	検挙人員(人)	192,607	182,582	175,041	94,552(-4,675)
	検挙率(%)	39.3	45.5	46.6	42.9(-3.3p)

※1 表中の()内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は19件で、前年同期に比べて10件(34.5%)減少

検挙件数は19件で、前年同期に比べて9件(32.1%)減少

【認知件数】

(単位:件)

【検挙件数】

(単位:件)

	R1	R2	R3	R4.7末
殺人	9	1	3	4(+3)
強盗	1	3	1	0(±0)
放火	3	1	2	1(±0)
強制性交等	2	8	13	4(-5)
略取・誘拐	0	1	3	1(-1)
強制わいせつ	11	22	22	9(-7)
合計	26	36	44	19(-10)

	R1	R2	R3	R4.7末
殺人	8	1	4	4(+3)
強盗	1	3	1	0(±0)
放火	3	1	2	1(±0)
強制性交等	2	8	13	4(-5)
略取・誘拐	0	1	3	1(-1)
強制わいせつ	11	22	22	9(-6)
合計	25	36	45	19(-9)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は817件で、前年同期に比べて53件(6.9%)増加

(単位:件)

	R1	R2	R3	R4.7末
車上ねらい	147	189	123	93(+26)
自転車盗	477	307	293	147(-4)
万引き	516	543	443	347(+106)
置引き	217	143	114	60(-15)
器物損壊	261	238	220	97(-38)
空き巣	79	60	53	16(-26)
忍込み	58	46	252	12(-9)
住居侵入	62	72	51	45(+13)
合計	1,817	1,598	1,549	817(+53)

2 子どもを犯罪から守る対策

(1) 児童虐待事案の認知・対応状況

ア 認知対応件数等

認知対応件数は311件で、前年同期に比べて6件(1.9%)減少

児童通告人員は348人で、前年同期に比べて16人(4.4%)減少

検挙件数は9件で、前年同期に比べて12件(57.1%)減少

	R1	R2	R3	R4.7末	
認知対応件数(件)	372	555	547	311(-6)	
児童通告	人員数(人)	418	678	608	348(-16)
	身体的	46	73	60	39(+12)
	性的	0	4	4	0(±0)
	不慮	28	31	26	9(-8)
	心理的	344	570	518	300(-20)
	うち面前DV	295	436	346	229(+13)
検挙件数(件)	47	59	33	9(-12)	

イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有と確実な児童通告の実施
- 児童虐待事案における連携を強化するため、児童相談所と定期的に検討会を実施

(2) 子どもに対する声掛け事案等

ア 相談等件数

相談等件数は97件で、前年同期に比べて26件(21.1%)減少

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4.7末
小学生以下	114	91	100	40(-19)
中学生	49	56	55	21(-11)
高校生	81	64	60	35(+5)
その他	4	8	3	1(-1)
合計	248	219	218	97(-26)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は53件で、前年同期に比べて9件(14.5%)減少

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4.7末
検挙	40	27	22	8(-7)
指導・警告	72	69	83	45(-2)
合計	112	96	105	53(-9)

ウ 主な施策

- 事業者や地域住民等に対して、声掛け事案等の発生状況、特徴等の情報を提供し、「ながら見守り」活動への協力を要請
- 通学路等における警戒・パトロールや防犯ボランティアと連携した見守り活動を強化するなど被害防止活動を推進
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- リュウピーネットやGIS(安全・安心マップ)によるタイムリーな不審者情報の発信



ラジオ広報による「ながら見守り」活動への参加呼びかけ



見守り隊に対する防犯講習会

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は57人で、前年同期に比べて11人(23.9%)増加

(単位：人)

	R1	R2	R3	R4.7末
犯罪少年	103	101	74	44(+3)
触法少年	23	35	24	13(+8)
ぐ犯少年	4	2	0	0(±0)
非行少年総数	130	138	98	57(+11)

(2) 主な施策

- 小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 少年や保護者等の悩みや困りごとについて、少年補導職員が電話や面接等で相談に対応
- 県や少年警察ボランティア等の関係機関・団体と連携した街頭補導活動を推進



関係機関との街頭補導活動



夏休み前の非行防止教室

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は104件で、前年同期に比べて22件(17.5%)減少

検挙件数は107件で、前年同期に比べて23件(17.7%)減少

(単位：件)

	R1		R2		R3		R4.7末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
強制性交等	2	2	7	7	13	13	4(-5)	4(-5)
強制わいせつ	11	11	18	18	22	22	9(-7)	9(-6)
略取誘拐・人身売買	0	0	1	1	2	2	1(-1)	1(-1)
暴行	161	155	155	155	117	118	76(±0)	78(±0)
傷害	64	65	60	54	34	37	14(-9)	15(-11)
合計	238	233	241	235	188	192	104(-22)	107(-23)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は75件で、前年同期に比べて8件(9.6%)減少

検挙件数は15件で、前年同期に比べて9件(37.5%)減少

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4.7末
相談等	121	157	130	75(-8)
検挙	23	41	37	15(-9)
禁止命令・警告	49	64	64	29(-15)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は126件で、前年同期に比べて6件(4.5%)減少

検挙件数は50件で、前年同期に比べて10件(16.7%)減少

(単位：件)

	R1	R2	R3	R4.7末
相談等	237	269	236	126(-6)
検挙	144	142	99	50(-10)
保護命令	7	14	9	0(-8)
警告	70	101	109	52(+2)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 企業等における女性の防犯、相談受理等を担う「レディースガードリーダー」を対象に、毎月1回、女性・子どもを巡る犯罪情勢、時節に応じた防犯指導等について情報を発信
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援 (R4.7末：12件実施)



レディースガードリーダーに対する毎月1回の情報発信 (LGL通信)

5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は11件で、前年同期に比べて1件（8.3%）減少
- ・ 被害金額は約1,819万5千円で、前年同期に比べて約458万円（20.1%）減少

【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い（11件中8件、72.7%）
- ② 手口別では、架空料金請求詐欺が多い（11件中5件、45.5%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」6件、「キャッシュカード窃取型」2件、「現金手交型」2件、「現金送付型」1件

	R1		R2		R3		R4.7末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	3	530	0	0	0	0	2(+2)	6,000(+6,000)
預貯金	—	—	7	8,201	5	6,076	0(-3)	0(-5,576)
架空料金請求	12	92,332	7	33,100	6	59,398	5(+4)	7,699(-5,701)
融資保証金	3	6,003	1	350	0	0	0(±0)	0(±0)
還付金	2	955	0	0	12	8,999	2(-4)	1,996(-1,383)
金融商品	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
交際あっせん	0	0	1	10,560	0	0	0(±0)	0(±0)
その他	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	6	14,855	3	3,544	4	3,420	2(±0)	2,500(+2,080)
合計	26	114,675	19	55,755	27	77,893	11(-1)	18,195(-4,580)

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。従来、オレオレ詐欺として計上していたもののうち、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るものについては、令和2年1月から預貯金詐欺の分類で計上

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

(2) 検挙状況（助長犯罪*を含む。）

検挙人員は11人で、前年同期に比べて2人（15.4%）減少

	R1	R2	R3	R4.7 末
検挙件数（件）	50	39	40	19（+5）
検挙人員（人）	39	31	31	11（-2）

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

特殊詐欺撲滅対策プロジェクトチームによる被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

ア 被害防止対策

- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットやツイッター、Yahoo!防災速報等による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 制服警察官による高齢者宅への巡回連絡や出前講座等の直接指導
- 金融機関や企業等との連携による官民一体となった被害防止対策
- マンガ等を活用した幅広い世代に対する分かりやすい広報啓発活動



高齢者に対する出前講座



マンガによる特殊詐欺被害防止広報



イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
 - ・ 有料サイト利用料金名目の架空請求詐欺（R2.12～）
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は12人で、前年同期に比べて12人(50.0%)減少 (単位:人)

	R1	R2	R3	R4.7末
刑法犯	63	46	31	3(-10)
特別法犯	45	26	19	9(-2)
合計	108	72	50	12(-12)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底 (H29.4~)

ウ 取締り

- 双愛会傘下組織準構成員らによる詐欺被疑事件 (R4.8)

エ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



第35回民事介入暴力等対策研究会



足羽川ダム建設事業に関する
不当要求行為等対策連絡会

(2) 薬物犯罪対策

ア 検挙状況

検挙人員は43人で、前年同期に比べて12人(38.7%)増加 (単位:人)

	R1	R2	R3	R4.7末
覚醒剤	46	40	29	22(+3)
大麻	17	22	29	15(+4)
その他	1	1	11	6(+5)
合計	64	63	69	43(+12)

イ 取締り

- ブラジル人グループによる薬物輸入・密売事件 (R3.10～)



押収した覚醒剤

(白い木箱の上蓋と底板に覚醒剤を染みこませたコルクを隠匿)

ウ 主な施策

若年層に対する薬物乱用防止啓発活動を強化するため、中・高校生や大学生に対する薬物乱用防止教室に加え、SNS等のインターネットを活用した広報活動を推進

7 来日外国人犯罪の対策

(1) 検挙状況

検挙件数は61件で、前年同期に比べて46件(43.0%)減少

検挙人員は38人で、前年同期に比べて5人(11.6%)減少

	R1	R2	R3	R4.7末
検挙件数(件)	45	218	160	61(-46)
刑法犯	39	193	125	39(-53)
特別法犯	6	25	35	22(+7)
検挙人員(人)	44	67	86	38(-5)
刑法犯	38	50	59	18(-14)
特別法犯	6	17	27	20(+9)

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- 外国人が経営するヤード(中古自動車、船舶の買取・輸出)に対する立入り調査の実施
- 在留外国人総合対策推進会議の開催

8 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受案件数

相談件数は1,268件で、前年同期に比べて287件(29.3%)増加 (単位:件)

相談区分	R1	R2	R3	R4.7末
詐欺・悪質商法 (インターネット・オークション関係を除く。)	634	775	944	501(+8)
インターネット・オークション	38	35	52	16(-13)
違法・有害情報	35	26	98	38(+12)
名誉棄損・誹謗中傷	66	106	118	69(-2)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	97	147	239	279(+182)
迷惑メール	170	195	122	129(+48)
その他	164	253	328	236(+52)
合計	1,204	1,537	1,901	1,268(+287)

(2) 検挙状況

検挙件数は25件で、前年同期に比べて10件(28.6%)減少 (単位:件)

	R1	R2	R3	R4.7末
不正アクセス禁止法違反	8	6	2	0(-1)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	3	3	4	5(+3)
ネットワーク利用犯罪	29	65	52	20(-12)
詐欺	5	21	13	8(+3)
児童買春・児童ポルノ法違反	13	2	3	1(-1)
県青少年愛護条例違反	1	2	4	1(-2)
わいせつ物頒布等	2	1	4	0(-3)
その他	8	39	28	10(-9)
合計	40	74	58	25(-10)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

(3) 主な施策

- サイバー犯罪捜査の知識・技能を有する捜査員を計画的かつ体系的に育成
- コンピュータ・ウイルス等を利用する悪質事案等の取締り
- 専門知識を有する産学の有識者を「福井県警察サイバー犯罪対策テクニカルアドバイザー」に委嘱
- 若者に対するインターネット利用のルールやマナー遵守に向けた広報啓発



テクニカルアドバイザー委嘱式



高校生に対する広報啓発

9 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

交通事故死者数は17人で、前年同期に比べて6人(54.5%)増加
 歩行者が犠牲となる死亡事故が4件で、全て道路横断中の事故
 死亡事故の大半は、前方不注意など運転に集中していないことが原因

【交通事故発生状況】

	R1	R2	R3	R4.7末
総事故件数(件)	21,990	18,804	19,811	11,579(+227)
人身事故件数(件)	1,168	868	912	514(+14)
死者数(人)	31	41	26	17(+6)
傷者数(人)	1,333	940	1,029	573(+6)
重傷者数(人)	234	161	176	99(-1)
物損事故件数(件)	20,822	17,936	18,899	11,065(+213)

※ 全国の交通事故死者数(R4.7末)は1,365人で、前年同期に比べて63人減少

【年齢層別・状態別死者数(R4.7末)】

(単位:人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下						1		1(-1)
30歳代								0(±0)
40歳代	3			3				3(+1)
50歳代	1			1				1(+1)
60~64歳	1			1				1(+1)
65歳以上	3	1	1	5	3	3		11(+4)
75歳未満	1	1		2	1	1		4(+1)
75歳以上	2		1	3	2	2		7(+3)
合計	8	1	1	10	3	4		17(+6)

(2) 交通事故から高齢者を守る対策

ア 高齢者（65歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は11人で、全死者数の約6割（64.7%）

	R1	R2	R3	R4.7末
全死者数（人）	31	41	26	17（+6）
高齢死者数（人）	18	31	16	11（+4）
構成率（%）	58.1	75.6	61.5	64.7(+1.1p)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行者・自転車乗用中）の死者は6人で、前年同期と比べて1人増加

（単位：人）

	R1	R2	R3	R4.7末
高齢交通弱者の死者数	12	19	10	6（+1）
歩行中	8[8]	14[14]	8[7]	3[3]（-1[±0]）
夜間歩行中	6[6]	9[9]	7[6]	1[1]（-3[-2]）
自転車乗用中	4	5	2	3（+2）

※[]は反射材非着用

ウ 主な施策

- 合い言葉「運転は、集中力と思いやり！」を活用した広報啓発
- 高齢者交通安全リーダー等による高齢交通弱者に対する街頭指導の推進
- 安全教育資機材を活用した交通安全教室の実施



合い言葉「運転は、集中力と思いやり！」
を活用した広報啓発



高齢歩行者に対する街頭指導

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故*

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者（原付以上）が第1当事者となる死亡事故は6件で、前年同期に比べて4件（200.0%）増加

（単位：件）

	R1	R2	R3	R4.7末
交通死亡事故件数	31	38	25	16(+5)
高齢運転者が第1当	8	14	10	6(+4)

※ 高齢運転者が運転免許を必要とする車両を運転して第1当事者となった交通死亡事故

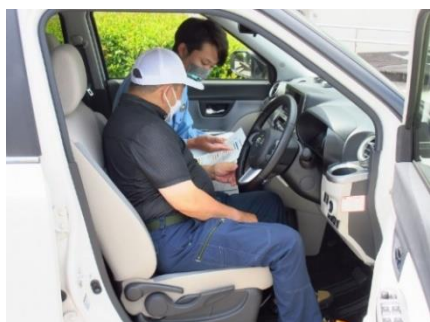
イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）（R4.7末）

（単位：件）

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下								0(-3)
30歳代								0(-1)
40歳代	3			3				3(+1)
50歳代	5			5				5(+3)
60～64歳								0(-1)
65歳以上	4	1	1	6	2			8(+6)
75歳未満	2	1		3	1			4(+3)
75歳以上	2		1	3	1			4(+3)
合計	12	1	1	14	2			16(+5)

ウ 主な施策

- 運転技能自動評価システムを活用した交通安全指導
- 高齢者講習や運転免許更新時等を活用して事故原因（身体機能の低下等）の説明
- 高齢者を対象とした交通安全教室の実施



運転技能自動評価システムを活用した
交通安全指導



運転免許更新時を活用した
限定運転の推奨

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転対策

(7) 飲酒運転による人身事故（運転免許を必要とする車両によるもの）

飲酒運転による人身事故は5件で、前年同期に比べて3件（37.5%）減少

死亡事故の発生はなく、前年同期に比べて1件（100.0%）減少

	R1	R2	R3	R4.7 末
人身事故件数（件）	23	12	13	5（ -3）
死亡事故件数（件）	2	3	3	0（ -1）
構成率（%）	8.7	25.0	23.0	0（-12.5p）

(イ) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は59件で、前年同期に比べて13件（18.1%）減少

	R1	R2	R3	R4.7 末
検挙件数（件）	223	156	155	59（ -13）

(ウ) 主な施策（飲酒運転根絶気運の醸成）

- 飲酒運転取締りの強化
- 飲酒運転取締り大検問の実施と広報活動の推進
- 小学生等を「リュウピー・リュウミー交通保安官」に任命し、家庭や地域から飲酒運転根絶気運を醸成

イ いわゆる「あおり運転」対策

車間距離保持義務違反の検挙件数は18件で、前年同期に比べて27件（60.0%）減少

（単位：件）

	R1	R2	R3	R4.7 末
車間距離保持義務違反	106	122	66	18（ -27）



飲酒検問の実施



空陸一体となったあおり運転対策の実施